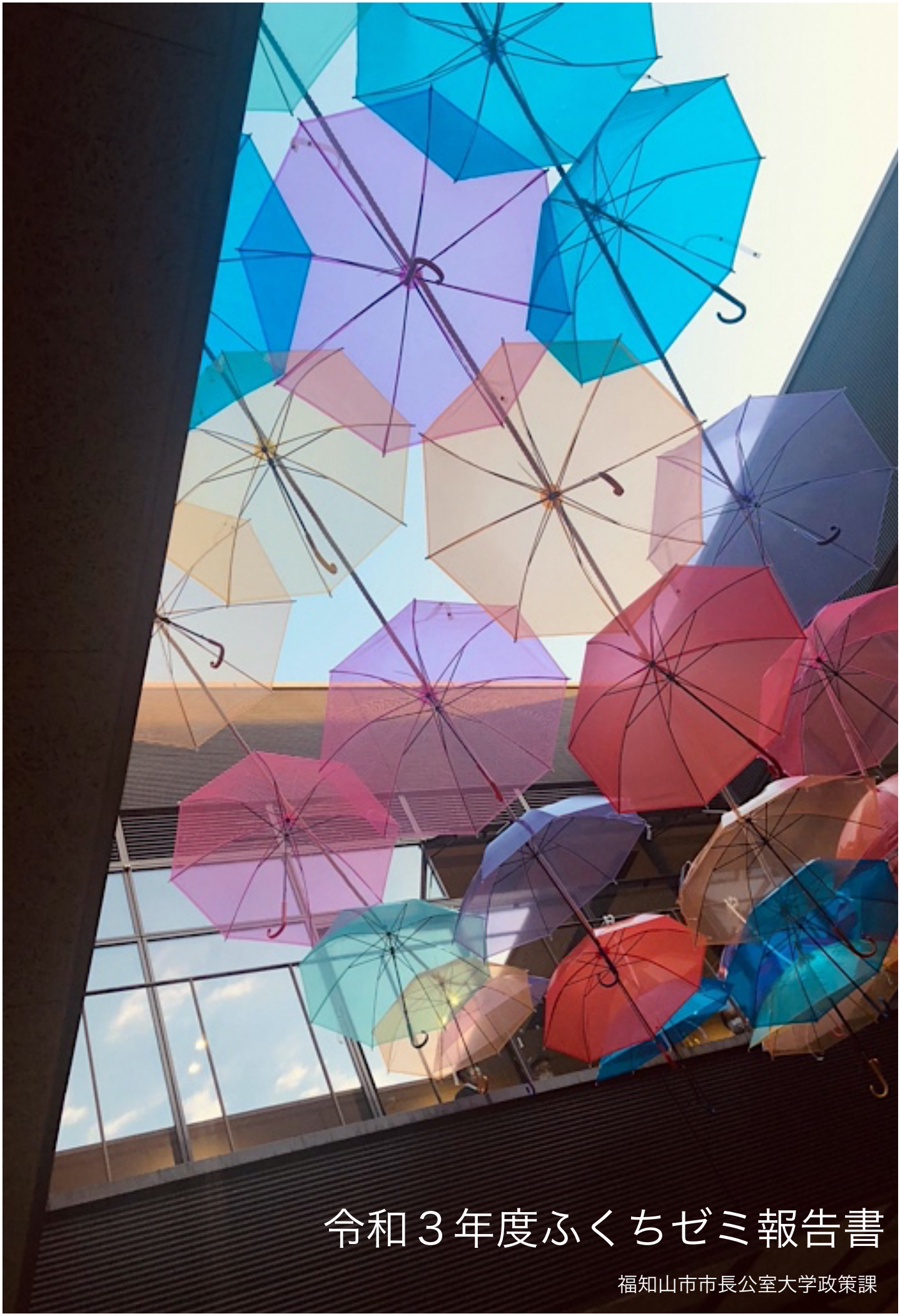


令和３年度ふくちゼミ報告書

福知山市市長公室大学政策課

ふくちゼミの趣旨目的

福知山市内在住または在学中の高校生や大学生に向けて、福知山で活躍する大人と出会い協働することで、福知山愛とまちづくりへの挑戦心＝光秀マインドを涵養し、主体的に行動できる若者の成長を支援することを目的としています。

また、福知山公立大学まちかどキャンパスでの交流を通して修学や大学生活のイメージをふくらませ、高校生にとって、福知山公立大学をより身近に感じてもらえる契機となることを期待しています。

コンセプトは次の３つです。

① 福知山で活躍する大人と出会う

多様な価値観に触れるため、福知山で活躍する 20 代～40 代の大人と出会います。そして、ライフヒストリーを聞くとともに、なぜ福知山で活躍されているのかヒントを掴みます。ライフヒストリーを聞いた後、講師と対話しながら、自分自身の人生において、前向きに取り組むヒントを得ていきます。

② 自分のプロジェクトを作る

興味関心を抱いている分野について、やってみたいことのプロジェクト化にチャレンジします。

③ 大学生と交流し、学ぶ

大学生からプロジェクトに関するアドバイスをもらうとともに、大学生活の話を聞くなどして、ロールモデルとなる人物と出会い、交流を通じて主体的に将来を描くきっかけとします。

ふくちゼミプロジェクトの概要

ふくちゼミの参加者は、高校生・大学生をあわせて、合計 28 名で 5 プロジェクトを立ち上げ、令和 3 年 5 月から開始しました。

① 広報ふくちやま作成プロジェクト

「広報ふくちやま」の特集ページを一から企画し内容を考え、取材や文書校正を行いました。福知山市の魅力を改めて知るとともに、魅力を発信しました。

② 移住者発掘プロジェクト

福知山で活躍する、またはこれから活躍しそうな移住者を発掘し、福知山の移住誘致のための移住者交流会を行いました。

③ カラフル～高校生がつくる彩られた空～

「自分自身でやってみたいこと」を整理し、若者の視点で福知山を盛り上げたいという思いから、カラービニール傘を活用したアンブレラスカイに挑戦しました。

④ オンライン de 福知山踊りプロジェクト

福知山の文化をより多くの人に伝えるために、オンラインで福知山踊りを踊る企画を実施しました。

⑤ わかもの食プロジェクト

福知山公立大学と福知山淑徳高等学校が協働し、若者の孤食を解決するための企画を実施しました。

本報告書は、ふくちゼミのプロジェクト成果をまとめるとともに、福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎の学生スタッフがふくちゼミ生をインタビューした内容をまとめています。

①広報ふくちやま作成プロジェクト

広報ふくちやま作成プロジェクトでは７名の高校生や大学生が参加し、６月２０日をスタートにミーティングを始めました。まずは福知山市の広報担当者から、「広報ふくちやま」に関する知識、そして企画取材、編集、校正等の手順を学びました。「広報ふくちやまの特集ページの企画案を考えてほしい」とのミッションのもと、プロジェクトメンバーで何度も話し合いを行いました。

その結果、「私たちの通学路をテーマにするのかどうか」というアイデアが出てきたため、通学路をテーマに広報ふくちやま特集ページを進めることとしました。

高校生は昔の福知山の通学路を知らないことから市民からエピソードを募集し 36 件集めることができました。その中でも「岸本ガード」と呼ばれる福知山駅の改修工事前にあった場所に着目し、岸本ガードにまつわるエピソードを集めました。

その後、インタビュー を行い、自分たちで記事の企画、取材、編集、校正を実施しました。

（令和４年広報ふくちやま１月号より）

②移住者発掘プロジェクト

移住者発掘プロジェクトでは、福知山で活躍する、またはこれから活躍しそうな移住者を発掘し、福知山の移住誘致のための発信することを目的にスタートしました。まず、はじめに「福知山で移住された方の声を聞いてみたい！」「移住支援の舞台裏を知りたい！」という思いを持ちました。そこで、2021 年 8 月 18 日、9 月 21 日の２回にわたり、福知山市に移住された方や移住支援をされている方へ、オンラインにてヒアリングを実行し、移住のきっかけや地域との付き合い方などをお聞きしました。

（移住者や移住支援をしている方へヒアリング）

（移住者交流会の様子）

ヒアリング結果を踏まえて、移住者交流会を行い移住者の皆さん同士の交流を促すことができないかと考えました。当日はプロジェクトメンバー3 名で助け合いながら、イベントを遂行することができました。

今回参加された移住を検討されている３組の家族からは「参加できてよかった。移住者ならではの視点でお話もされていて、とても参考になった。」との声が寄せられ、プロジェクトメンバーも一安心でした。

③ カラフル～高校生がつくる傘で彩られた空～

（実際のアンブレラスカイの様子）

（プロジェクトメンバー）

自分たちが何をやりたいのかを約 1 か月にわたり整理し、「若者の視点で福知山を盛り上げたい」「今まで福知山で取り組まれたことないものに挑戦したい」という想いから、カラーのビニール傘を使って「アンブレラスカイ」を行い、福知山に新たなインスタ映えスポットをつくることを目標に事業がスタートしました。

しかし、傘を買う予算はありません。そこで福知山公立大学が企画運営する「若者まちづくり未来ラボ事業」公募の補助金に応募。プレゼンテーションの審査を経て、自らの力で予算を獲得しました。

大雪による順延を乗り越えて、2021 年 12 月 21 日、晴天の中、市民交流プラザふくちやま 3 階テラスにアブレラスカイによるカラフルな光景を作り出すことに成功しました。

④オンライン de 福知山踊りプロジェクト

「福知山を盛り上げたい！」「地域を活性化させたい！」という高校生の思いから、はじめは「ギネス記録を福知山で作る」というアイデアが出ました。実際にギネス記録を調査し、ご当地踊りをたくさんの人数で一緒に踊るものであれば、福知山でもできるのではないかと想い、企画を考え始めます。

ビジネスメールの書き方を大人に教わり、実際にギネス記録認定の事務局へ連絡をしてみたところ何百万円以上のお金が必要だと判明。そこで原点に立ち返り「ギネス記録を狙っていたご当地踊りで福知山を盛り上げる」と事業を定めました。そこで、オンラインで福知山踊りを踊るイベントを計画し、自分たちでチラシ配りを行い、地域の方から温かい協力をいただくことができました。

2021 年 12 月 18 日のイベント当日は、緊張したものの自分たちの力を出し切ったメンバーたちに向けて、地域の方からも「この場を開いていただいて本当によかった。」とお褒めの言葉をいただきました。

高校生メンバーは「福知山踊りについて私自身あまり詳しくありませんが、福知山のお祭りが再開し、福知山踊りを輪になって踊りたいという気持ちが高まりました」と語っています。

⑤わかもの食プロジェクト

福知山公立大学のまちかどキャンパス吹風舎を拠点に、若者と地域が協働で地域社会の問題解決や未来創造に取り組む「若者×地域フューチャーデザインプロジェクト」の一環で募集。メンバーでテーマ「食」に定め、「わかもの食プロジェクト」として活動を開始しました。

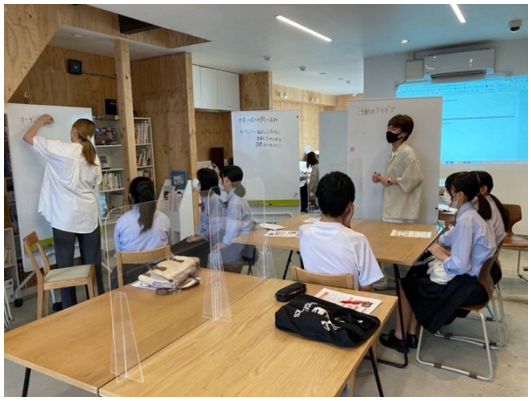
福知山公立大学が企画運営や情報発信、また調理の専門学科を持ち数々の賞を受賞する福知山淑徳高等学校がレシピ開発と役割分担をしながらプロジェクトを進めました。

当初は「大学生の孤食を減らす」というミッションを掲げ、リアルにカフェを開きお披露目する予定でしたが、コロナ禍で飲食を伴った食材提供が難しいことから、簡単に作ることができるレシピを動画にまとめ発信することとしました。

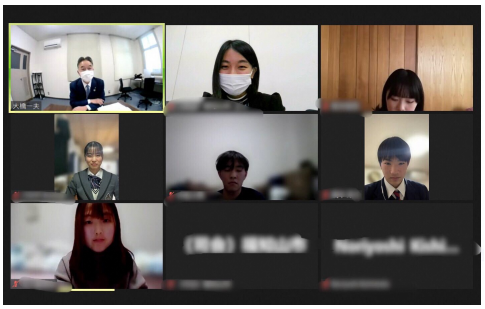
まずニーズ調査をしたところ、大学生のリアルな声として「ご飯を作ることがめんどくさい」「あまりお金をかけたくない」などの意見が寄せられ「調理器具をあまり使わず、栄養価が高いレシピ」を作成することに。

2021 年 7 月～9 月までミーティングを重ね、10 月 23 日にメンバーで試食会を行いました。その結果、とても食べやすく、作りやすいものを作ることができ、11 月 14 日から実際に動画を撮影し、編集を行い始めました。

現在、10 個のレシピ動画を SNS で公開中です。メンバーからは「食の豊かさが人の心を満たすことを実感したし、プロジェクトデザインの方法とその実現の難しさを学ことができた」「大学生と活動をして、大学での学びや将来のことについて考えるきっかけとなった」との振り返りがあがっています。



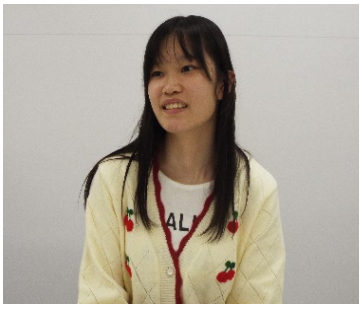
市長を囲んでまちづくりミーティング



参加者　福知山市長　大橋一夫
福知山公立大学地域経営学部　五十嵐麻衣
京都府立工業高等学校 3 年生　橋本栄介
京都府立大江高等学校 2 年生　新宮瑚雪
福知山成美高等学校 2 年生　籠谷芽ルモ
福知山公立大学情報学部　中根大貴

ふくちゼミの最終報告会終了後、各プロジェクトの代表者及び学生スタッフのメンバーで、福知山市長とのまちづくりミーティングを実施しました。「福知山で若者がまちでプロジェクトを行うために必要なこと」「若者がまちづくりに参画する仕組み」について、議論しました。

ゼミ生インタビューvol.1



高橋　愛実／福知山成美高校３年生

京都府福知山市が市民に向けて毎月発行する広報誌「広報ふくちやま」。本プロジェクトはその名のとおり、「広報ふくちやま」を学生ら自身の手で作り上げる取り組みである。広報誌について、聞いたことはあるが見たことはないという状況の中で参加した本プロジェクト。インタビューを通して、彼女の思いや本プロジェクトにおける活躍を探った――。

『通学路』を思い出して地元を好きになってほしい

――まず、本プロジェクトに参加した理由を教えてください。

以前から**文章を書くこと**が好きでした。キャッチコピーを考えることは特に。それをこのプロジェクトに活かせないかと考えました。**広報誌の作成**にも興味がありました。

本プロジェクトへの参加の決め手となったことは、実際に「広報ふくちやま」を作成している**吉良恭蔵さん**（福知山市役所秘書広報課広報係）が宣材写真を撮る動画を視聴し、その姿に魅了されました。

――本プロジェクトの手始めに、「広報ふくちやま」作成の舞台裏を吉良さんにレクチャーしていただいたとお聞きました。

率直に、大変そうだという印象をもちました。特に、文章を書く際のルールが厳しいと感じました。紙面の作成に関して言えば、**私の想像とは全く違い**ました。これまで、PowerPoint を使ってみんなでアイディアを出し合うという方法を試みたことがなく、とても難しく感じました。また、Slack や Zoom などのツールを使うことも初めてで、わからないことばかりでした。でも、プロジェクトの中で使用するうちにさまざまな機能も使いこなせるようになり、**今後も活用していきたい**と考えています。

――「通学路」をテーマにするというアイディアは高橋さんの提案に端を発したとお聞きしました。なぜ、このテーマにたどり着いたのですか？

自身が学生であることからも、**学生というものに根ざした活動をしてみたい**という思いがありました。そこで自分の学校生活を振り返ったとき、学校以外ならば**「通学路」が最も学生らしい要素**であると思いました。

――高橋さんにとって、本プロジェクトの中で一番印象に残ったこととは何ですか？

昔と今の福知山を比較することがこのプロジェクトの趣旨でしたが、**昔の写真が手に入らない**という重大な問題がありました。そこで Instagram を活用して、福知山市民のみなさんに写真を募集しました。同時に、自身の通学路での思い出も募集しました。想像以上に多くの方々からの応募があり、**協力してくださる人の多さ**には驚きました。また、Instagram は 10～20 代の方々が多く使っているイメージがあったので、30～40 代の方々からの投稿が最も多かったことや、70 代の方からの投稿があったことにも驚きました。

――Instagram を上手く活用できたというわけですね。でも、その行動に至る前まではどのようなイメージで活動しようと考えていたのですか？

本プロジェクトの開始当初は、「広報ふくちやま」を**自分たちだけで作る**という実感がなく、あくまで市役所の方を中心に活動すると思っていたことが本音です。自分たちだけで作ることは可能なのだろうかという**不安**もありました。そんな中、Instagram の多くの投稿を見て、**自分たちの活動に興味を持ってくださっている人々の存在を実感**し、私自身の原動力となりました。

――本プロジェクトを通して、高橋さん自身が得たものとは何ですか？

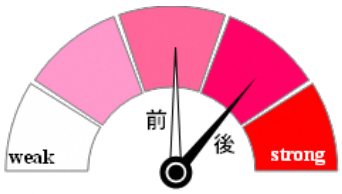
人と話すことが苦手な自分にとって、他校の高校生や大人の方々との関わりを持つことができた経験が本当に大きなものでした。**普段関わることのない人々**だからこそ自分の考えを伝えることができたと感じています。また、**自分の意見を発信する**ことの大切さに気づくこともできました。自分の意見が必ずしも反映されるとは限りませんが、たとえ人と話すことが苦手でも自分の意見をはっきりと言うことは大事だと思います。

――いよいよ「広報ふくちやま」2022 年 1 月号に、高橋さんたちが作成したページが掲載されましたね。みなさんにどのようなことを感じてほしいですか？

大人の方々には、昔と今の福知山を比較して学生時代を思い出したり、それによって**懐かしい気持ち**になったりしてもらいたいです。若い方々にも、通学路を思い出すことで**「やっぱりこの場所がいいなあ」という気持ち**になってもらいたいです。

「広報ふくちやま」
2022 年 1 月号

――プロジェクト前後における「福知山愛」の変化



本プロジェクトを通して、地元だけのお店など、**福知山ならではの魅力**を知ることができました。ただ、福知山の魅力に気づくことはできたものの、まだまだ都会にあこがれる自分がいます。**都会よりも福知山の方が良いまちであると思える**ようになったときに、私の福知山愛は「strong」になったと言えます。

ゼミ生インタビューvol.2

岡田唯花／福知山公立大学１回生

移住者発掘プロジェクトのまとめ役として約半年間にわたり、ヒアリング調査から移住者交流会の企画実施まで行った。
福知山で高校時代も過ごした彼女がどのような想いで、ふくちゼミに関わったのか紐解いていきたい。

学びの場所　福知山

――ふくちゼミを参加したきっかけを教えてください。

大学の講義内での紹介で存在を知り、友達と一緒に参加することにしました。

――プロジェクトの計画、実行するうえで大変だったことはありますか？

チーム内での意思疎通と情報共有です。ゴールが同じでも細かい部分が共有していないと上手くいかないこともありました。

――プロジェクトの前後での心境に変化はありますか？

プロジェクトが始まる前は不安や期待がありました。とりあえずやってみようという気持ちでした。**プロジェクト後は大人の方との交流が多く様々な人から福知山に関するお話などをたくさん聞けて地域にいらっしゃる方は多様な人が多いと感じました。**

――実際移住者の人と交流会を通して感じたギャップは？

自分のイメージでは、移住者の方は移住する前から福知山に興味があるのかなと思っていました。でも実際は、住みたい家がたまたま福知山にあったなど、生活の質の向上にために福知山を選んだ人が多かったのがギャップでした。ほかにも移住者の人が外国の人が多かったことにも驚きました。

――実際移住者の人と交流会を通して移住に対する考えはどのような考えを持つようになりましたか。

以前は移住に関して、移住者を迎える視点でのイメージが強かったのですが移住者さんのお話をたくさんお聞きして人生の中の１つの選択肢であるというイメージに変わり、同じ地域に移住された方でもルーツや決め手、関わり方が全然違うと分かりました。

――今回、コロナ禍であっても様々な人達と出会う機会が多かったと思いますが、印象に残っているエピソードはありますか？

オンライン上でのお話の機会と、オフラインでのイベントをどちらも経験したのですが、オンラインよりもやはりオフラインの方が会話の量が違い、交流がより深くなると改めて感じました。

オフラインでの交流の機会でもより深いつながりが生まれるような交流の仕方について今後考えていきたいと思いました。

――このプロジェクトでの経験を今後どういかしていきたいですか？

プロジェクトを一度活動した経験値や反省したことを大学（ゼミなど）での活動に生かしたいと思います。

――今後「ふくちゼミ」のようなプロジェクトに参加したことのない学生に伝えたいことがあれば教えてください。

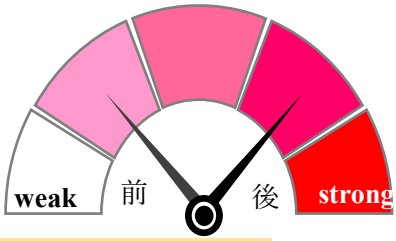
色々な人と交流ができます。自分で最初から企画、計画することは難しいけど、ふくちゼミはやりやすいと思うのでぜひ参加してほしいと思います。

――ふくちゼミの目的の一つに「福知山愛を育む」があることを知っていますか?

聞いたことはあるけど、詳しいことは知らなかったです。

――福知山への愛のエンゲージを５段階でプロジェクト前後の変化を教えてください。

２から４に変化です。もともと福知山を知らなかった人から愛されたことを知って変化していきました。５ではない理由としては、知らないことが多いです。



――「福知山」はどんな場所？

私にとって福知山は、学びの場所です。中学からまで福知山の学校に通っていることはもちろん、大学生になってから福知山で出会う方々からたくさんのことを学ばせていただいています。今後も沢山の人に出会い学ぶとともに、学びをくれた福知山に少しでも貢献出来たらいいなと思っています。

ゼミ生インタビューvol.3

谷口こころ／福知山成美高校２年生

自分自身でやってみたいプロジェクトを立ち上げ企画し、このコロナ禍で企画が二転三転しながらも、助成金の獲得やプロジェクトの実施まで行った。このふくちゼミでやり遂げた経験ができたからこそ、見えてきた地元福知山に対する想い。その想いを彼女から探った。

福知山は『帰ってきたい場所』

――ふくちゼミに参加した経緯やきっかけは何ですか？

生徒会に入っているので 学校のそういう活動を先頭に立ってやるという立場で生徒会の先生からこういう活動してみないかと、ふくちゼミに誘われて、「楽しそうだな」と思ってふくちゼミに入りました。 様々なプロジェクトがある中で、自分自身でやるっていう内容を聞いた時にすごくワクワクするなと思って始まりました。

――アンブレラスカイをやろうと思ったきっかけなど教えてください。

Instagram が好きで、アンブラスカイって可愛いくて綺麗で、Instagram に掲載できるし、私自身も載せたいなと感じたからです。ちょうどアンブレラスカイを見に行きたかってせっかくなので、自分でやっちゃおう！と思いました。

――プロジェクトの活動で、思い出によく残っていることは何ですか？

福知山公立大学で企画運営されている未来ラボ事業の助成金を活用したのですが、その資料作成とプレゼンテーションしたことが印象に残っています。資料作成の時から結構大変で提出期限ギリギリに「これでやろう」と決まったので、印象残っていますね。助成金が取れた時はとても嬉しかったです。

――このプロジェクトを通して学んだこと、新たな気付きや今後の人生に活かしたいことはありますか？

最初にちゃんと計画立てやっていく重要性に気づきました。どんなときでも大切だなと、とても普通のことですが気づきましたね。

――ふくちゼミなどのプロジェクトに参加したことない学生に伝えたいことはありますか？

「1 回、やってみてほしい。」と伝えたいですね。やってみると楽しいと思うし、もちろん勉強の両立とかで大変ですが、そこで知り合える人や勉強だけしていても絶対分からなかったことを体験することができます。もっといろんな人と関わることで、楽しいなって思うことや達成感を得ることができるから地域に関わることも楽しいよと伝えたいです。

――大学の方と関わってみてどうでしたか？

プレゼンテーションの時に大学の方々は見ている視点が違って、私達は高校生だから見ているスケールがまだまだ小さいなと感じました。

今まで見てきているものが違うから、私たちの言ったことに対して様々な角度から切り込んでいただいて別の意見いただけたので、**考え方が広がりました。**

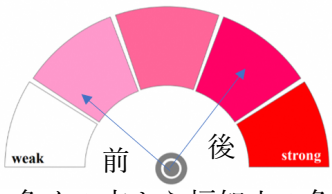
――この経験を経てこれからどうしていきたいですか？

この経験をきっかけに、地域創生について学ぶための大学に行き、もっと大きな規模、多くの人を巻き込むためにはどういうことが必要なのか学んで福知山に戻って来たいと考えています。世代を超えてつながれるような福知山にしたいなと考えています。高校生は高校生、大学生は大学生、大人は大人という区切りを超えた関わりができたらと思っています。

――あなたにとっての福知山はどのような場所ですか？

最終的に、自分を守ってくれる居場所、帰って来ることができる場所ですね。何か楽しいことできるなって思っていたり、ここの人たちやったら自分のことを受け入れてくれるなと感じる場所ですかね。まあ生まれたってのも大きいですが**帰ってきたい場所**ですかね。

――福知山愛エンゲージについて、プロジェクトを行う前後についてと、その理由を教えてください。



始めは２の初めの方で、終わった後は 5 段階で４つめのど真ん中ですかね。

多くの方から福知山の色んな話を聞けたりアンブレラスカイをどこでやるか場所を探している時に、雰囲気のいい空間やおいしそうなお店を見つけたりしました。最終発表会で、他のグループの方の発表を聞いていたら高校生と大学生が一緒になって福知山のことについてみんなで取り組んでいるって素晴らしいことだと感じました。何より、福知山っていいなと改めて感じましたね。

今回、福知山愛エンゲージが最高値ではない理由は、もっと福知山と関われる時間を増やしたり、他の地域を見て福知山に戻ってきて、一回でたら違う角度から見ることができると感じているので、その期待も込めてです。

ゼミ生インタビューvol.4

荒川琴美／福知山高校２年生

自分自身で何かやりたい！と思い、紆余曲折をへて、オンライン de 福知山踊りプロジェクトを行った。参加者集めを自ら行い、伝えることの難しさや伝わった時の醍醐味を味わったという。

人との出会いから生まれた福知山への興味関心

――このふくちゼミに参加した経緯やきっかけ、その時の心境などを教えて下さい。

学校の掲示板でふくちゼミについて知って、大学生と関わり一緒に何かすることができると書いてあったので、今まで大学生と関わる機会なかったし、周りの学校の学生とも関われる機会になるかなと思って参加しました。

――プロジェクトの中で印象深い活動はありますか？

オンライン参加をしてもらえそうな人が思った以上に上手く集まらなくて、自分たちの通っている高校や商店街でチラシを配るなど色々なところに声かけや説明をしたことが印象深いです。

――プロジェクトを通して新たな気づきや学んだことはどのようなことでしょうか。

このプロジェクトで、福知山踊りというものをちゃんと踊ったことが初めての経験で、今までは踊っている人を見ている側だったので踊ってみて楽しいなと感じましたし、知らない人や初めて会う人もいたけど、一体感が生まれていました。

――プロジェクトを通して今後の人生に活かしたいことはありますか？

このプロジェクトで大学生や大人の人も含めて他校の学生、いろんな人に、自分のしている活動のアピールする機会が多くあって、**自分のやりたいこととかそういうのを周りの人にアピールする力がついた**と思うのでそれを活かしていきたいです。

――ふくちゼミなどのプロジェクトに参加したことがない、参加する勇気がない学生に伝えたいことはありませんか？

私の勝手なイメージでそういうプロジェクトに積極的に参加する人って自分から積極的に動ける人というイメージがあると思います。私自身あんまり主体的に動けるほうじゃないと思っていて、それでもいろいろな方に支えてもらいながら楽しく活動できたので**意外と行ってみたらなんとかなる**と伝えたいです。

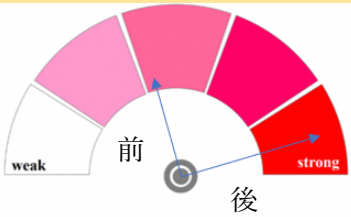
――参加された方の感想を聞いてどう思いましたか？

率直に嬉しかったです。5 月ふくちゼミをやってきて人を集める時に本当に集まるかなとか、自分が盛り上げられるのかなってとても不安だったので、「よかった」とか「楽しかった」とか言ってもらえて嬉しかったです。

――福知山の印象が変わったかまたその理由を聞かせてください！

参加する前までは、ただ福知山の学生って言うだけでしたが、やってみて福知山市が若者とコラボしている企画に興味関心が広がりました。福知山に住んでいるだけでなく、福知山に関わるきっかけになったと感じています。 福知山の様々なところで盛り上げる企画をされているのだなという印象です。

――福知山愛エンゲージについて、プロジェクトを行う前後についてと、その理由を教えてください!!

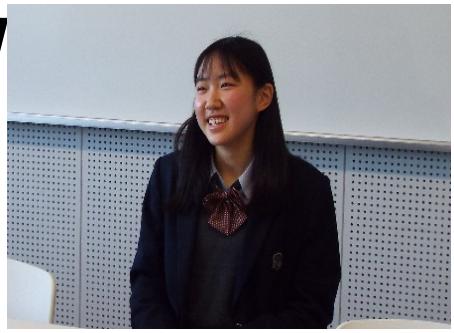


最初が 3 で、今が 5 の真ん中あたりですね。

今までも福知山に関心を持っていましたが、福知山踊りを含めて、福知山に関わる機会が多くなり、福知山を大切にしている人もいらっしゃったので、その人たちに感化されて、ああすごいいいところだなって思いました。

参加者の人の中で「福知山踊り大好き！」と言っておられる方がおられて、地元に誇りを持っておられるのがすごいなって思ったし、とても嬉しくなりました。このふくちゼミでより福知山の地域に関心を持つようになりました。

ゼミ生インタビューvol.5



伊藤　亜弥音／福知山淑徳高校２年生

朝食の欠食や食への関心の低下。大学生を取り巻く「食」に関する課題解決のため、料理を専攻する福知山淑徳高校生が福知山公立大学生と協働。高校生チームはレシピ開発を行った。その１人である彼女の思いに迫った。

学んだ。楽しんだ。話し合いの中で。

――はじめに、本プロジェクトに参加した理由を教えてください。

きっかけは学校の先生からの紹介です。**大学生と協働して活動を行う**ことが良い経験になるのではないかと思い、参加を決めました。

――実際に良い経験ができましたか？

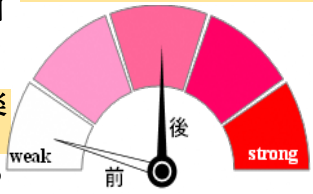
はい。**話し合い**を通して、自分では思いつかなかったような意見を他の人から聞くことで新たな考えに出会い、新たな気づきが生まれ、それを発信できたことが**自信**につながりました。

――本プロジェクトの中で、伊藤さんにとって最も楽しかった活動とは何ですか？

レシピの試作です。以前から友達と一緒に料理をする時間が好きでした。ただ、学校の授業では決められたものを作ることが多いので、話し合いながら料理をするという一からレシピを考えると楽しかったです。

友達と**話し合いながら試作をするということ自体が初めての試み**だったので、とても新鮮な気持ちになりました。また、レシピ開発をするうえで重要となるポイントや注意点について、先生からアドバイスをもらいましたが、それらの中には本プロジェクトで扱ったメニュー以外で活用できる知識もあり、そのようなものを（学校の授業外で）**学ぶ**ことができ本当に良かったと思っています。

――プロジェクト前後における福知山愛の変化は？



プロジェクトに参加する前までは福知山について全く知りませんでしたが、ふくちゼミを通して、福知山の様々な食材や商店街に出会う中で、福知山のことを知ることができたと思います。福知山愛を高めるためには福知山ならではのお店や食材についてもっと知りたいと思います。

ゼミ生インタビューvol.6

久保心楽／福知山公立大学２年生

高校生と一緒に取り組みを協働する中で、見つけた何気ない対話の重要性。また高校生との協働であふれやワクワク感とは？

興味のない分野でもワクワクする

――はじめに、本プロジェクトに参加した理由を教えてください。

最初はお手伝い気分で始めました。活動が進むにつれのめり込んでいきましたね。

――プロジェクトを進める中でのエピソードを教えてください。

大学生に朝食を提供するリアルカフェを計画したのですがコロナの影響でできなくなったのでメンバーのモチベーションを保つことが難しかったです。でも、先生の協力もあって料理教室と料理の動画撮影という形にできたのはよかったと思います。

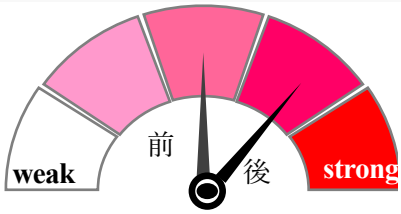
――プロジェクトの経験を今後どのように活かしたいですか。

今後は、あまり知らない分野のものをやってみて興味がわくってこともあるので自分には関心がなかったことに挑戦してみたいと思っています。

また、**見知らぬところに一歩踏み出すではないですけど、実際活動してみると楽しかったり、興味がわいたりするので一歩を踏みだすことが大切だと思います。**失敗したら次に活かしていくこの姿勢を今後もやっていきたいです。

――プロジェクト前後における福知山愛の変化は？

今回のプロジェクトを通して、まだまだ福知山の知らないことがあることに気づきました。今後の大学生活で、もっと福知山のことを知っていきたいです。



福知山公立大学学生スタッフの活躍

このふくちゼミでは、福知山公立大学の協力のもと事業運営を実施いたしました。福知山公立大学の教員、まちかどキャンパス吹風舎学生スタッフのみなさんに携わっていただいた、「情報リテラシー及び Slack 活用講座」「ファシリテーション講座」の内容をレポートします。

「情報リテラシー及び Slack 活用講座」

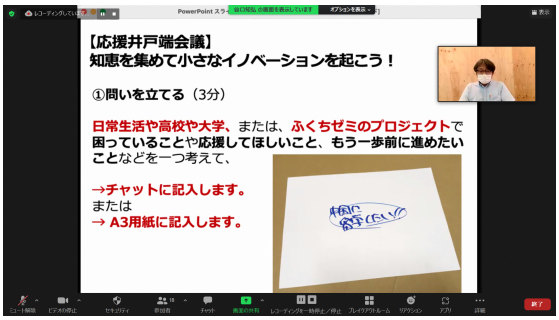
ふくちゼミのゼミ生たちは、5 つのプロジェクトを高校、大学の所属学校の枠を超えて実施したため、Slack アプリを活用しながら、連絡をとりました。初めて使用する参加者も多いことから、福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎学生スタッフの皆さんによる「情報リテラシー及び Slack 活用講座」を実施いただきました。SNS を活用することによって、どのようなリスクがあるのか、また上手く付き合っていくためにはどうすればよいかを教わりました。

また、Slack に関するレクチャーでは、実際の動作を行い、参加者同士で確かめあいながら講座を受講しました。

ファシリテーション講座

続いてはファシリテーション講座です。プロジェクトを進めるためには、ファシリテーション能力が必要になってきます。多様な人たちとチームを組み、プロジェクトをゴールに向けて進めていく。さらにプロジェクトをより良く進めるために、福知山公立大学地域経営学部谷口教授にお願いし、ファシリテーション講座を実施しました。

急遽、オンラインでの開催となりましたが、アイスブレイクで「24 時間以内の小さな気づき」をシェアすることからスタート。その後、ブレイクアウトルームに分かれて、「日常生活やふくちゼミプロジェクトで困っていることや応援してほしいこと、もう一歩前に進めたいことなど」を書き出し、お互いのプロジェクトを知ることから始めました。実際に話してみると、各プロジェクト様々な課題やこれからに向けたアイデアが出てきました。相互に刺激し、学び合いの関係性を築くことができました。



本報告書は、福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎学生スタッフの協力のもと作成いたしました。

発 行 日　令和 4 年 3 月 31 日
主　　催　福知山市市長公室大学政策課
協　　力　福知山公立大学
本件問合せ先　福知山市市長公室大学政策課
0773-24-7039
daigaku@city.fukuchiyama.lg.jp